

女子学生の親子関係意識

— 学生への調査より —

日 高 正 宏

本学の教育研究所では、「高等教育におけるキリスト教教育」の研究テーマの下に一連の報告をしてきた。

93年度には「高等教育におけるキリスト教教育—学生の意識調査から—」。96年度には「高等教育におけるキリスト教教育—大学生に何を教えることができるか—」。97年度には「高等学校までの教育と違って 短大・大学教育に求めるもの」という自由記述調査。98年度には「キリスト教科のカリキュラムの検討—学生からの反応—」をまとめた。

99年度は、今までと違う角度で、学生たちが家庭でどのような親子関係をもってきたか、さらにどのような親子関係を望むかを調査した。

日常的に接する女子学生たちの中に、臨床心理士の立場からすると、極めて不安定な、背後の守りの薄い、家庭が十分な機能を果していないのではないかとと思われる事例が多く見られることから、このようなテーマを選んだ。

以前から気になっていることは、学生たちの中に、親からの虐待の被害者がいることである。20歳の女子大生になってもなお、母親から髪の毛を引きずり回されたり、足で蹴られたりしている者もいる。また父親から乱暴されている学生もいる。また親の言葉に傷ついて相談に来る学生も多い。

直接に暴力を受けていなくても、あたたかい愛情を受けていない学生も多い。いわゆる家庭料理を食べていない学生もいる。

このような学生と接するにつれて、個人面接、個人セラピーも必要だが、全体の背景調査も必要と考えたからである。

また臨床心理士として、個人相談を受ける中では、小学生の親など若い親た

ちがずいぶん無神経に子どもの心を傷つける場面をよく見聞きしてきた。そのことから類推すると、大学生の中にも、親から心を傷つけられている者がいることが考えられる。

このような調査によって、問題が見られた場合には、直接援助、間接援助、啓蒙など、何らかの手だてを考え、実行していく必要がある。

＜設 問 親子の関係について＞

対象、本学キリスト教科1年生 2年生全員 記名式

○印チェックあるいは自由記述

1、あなたはどんな時に親から大切にされていると思いますか？

2、あなたはどんな時に親から大切にされていないと思いますか？

3、あなたは親から暴力を受けたことがありますか？

今もある よくあった 時々あった なかった

いつごろですか？

父親から 母親から 両親から 祖父母から

どんな状況が多かったですか？

最後に親から受けた暴力はいつですか？ _____

父親から 母親から 両親から 祖父母から

どんな状況ですか？

4、あなたは親の言葉で傷ついたことがありますか？

今もある よくあった 時々あった なかった

いつごろですか？

父親から 母親から 両親から 祖父母から

どんなことが多かったですか？

最後に親から受けた言葉の暴力はいつですか？ _____

父親から 母親から 両親から 祖父母から

どんなことですか？

5、この家に生まれて良かった、と思うような親子関係がありますか？自由に書いてください。

6、親子関係での嫌なこと、親に傷つけられたことなど自由に書いてください。

＜記名式にした意味＞

筆者は授業としては「人間関係トレーニング」「臨床心理学」「キリスト教人間学」などを担当しているが、一方臨床心理士でもある。この調査記入後の学生との関係も維持できる立場にある。そのことは学生も知っているので、単なる調査に終わるのではなく、記入内容によっては継続的援助をしますよ、というメッセージを含ませている。

＜対象を限った意味＞

調査対象としては、本学キリスト教科1年生と2年生全員を選んだが、それはこの回答を記入するには、調査者との信頼関係を必要とすることと、記入内容によっては継続的なケアを必要とするので、調査者が授業担当をしている範囲に限ることが必要と考えたからである。回答は106名であった。

＜調査結果＞

数字は回答者数

1、あなたはどんな時に親から大切にされていると思いますか？

・病気怪我の時、看病してくれる時、 20名 18.9%

・真剣に相談の乗ってくれる時	1 2	11.3%
・心配してくれる時、気にかけてくれる時	1 2	
・おこられる時、叱られる時	6	} 1 1 10.4%
・帰りが遅く心配しておこられた時	5	
・話を聴いてくれる時	9	8.4%
・帰宅が遅い時に起きて待っている	8	7.5%
・良いアドバイスをくれる時	7	6.6%
・ふつうの生活の中で	6	5.7%
・心配して携帯電話をしてくる時	5	4.7%
・楽しく話している時、一家団欒の時	5	
・駅まで車で迎えに来てくれる時	4	3.8%
・喜怒哀楽をともにしてくれる	4	
・励ましてくれる時	3	2.8%
・授業料を払ってくれる時	3	
・ほめてくれる時	3	
・何もかも	2	1.9%
・やりたいことに協力してくれる時	2	
・助けてほしい時に助けてくれる	2	
・夜遅くても食事を残してくれている	2	
・私の意見や気持ちを大切にしてくれる時	1	
・子どもの幸せを真剣に考えてくれる時	1	
・ゆっくり話し合う時	1	
・思いが一致するとき	1	
・対等にひとりの人間として扱われる時	1	
・他の兄弟と同等に接してもらう時	1	
・新しいことをさせてくれる時	1	
・助けてくれる時	1	

・理解してくれる時 わかってくれる時	1
・迷惑をかけても見捨てられない時	1
・自分の機嫌が悪い時	1
・毎日食事を作ってくれること	1
・つらい時一緒にいてくれる	1
・旅行に連れていってくれる時	1
・信用してくれる時	1
・気にかけてくれている時	1
・常に大切にしてくれている	1
・旅行に行かせてくれた時	1
・写真をたくさん撮られる	1
・お茶、夜食の差し入れ	1
・そっと見守ってくれている時	1
・海外研修の帰り空港まで車で迎えに	1
・自由にさせてくれる時	1
・両親が子どものことで真剣に会話	1
・愛していると言われる時	1
・要求を聞いてもらった時	1
・落ち込んでいる時のアドバイス	1
・尊重されていると思う時	1
・身の回りのことをやってくれる時	1
・おいしいものは絶対くれる	1
・早く帰省してと言われる時	1
・家に帰ることが苦痛でないこと	1
・朝早い時も起きて車で送ってくれる	1
・成人式・誕生日のお祝い	1
・良い成績をとった時	1

・先生からほめられた時	1
・真剣に考えてくれる時	1
・お金をもらう時	1
・下宿に宅急便や電話	1
・親から接近してくる時	1
・いろいろうるさく言われること	1
・父親が仕事に頑張っていること	1
・応援してくれる時	1

回答数 163 件 回答者 100 名 回答記入なし 6 名

2、あなたはどんな時に親から大切にされていないと思いますか？

・話を聞いてもらえない時	11 名	10.4%
・親の考えを押しつけられる時	6	5.7%
・兄弟姉妹ばかり可愛がる 扱いの差	6	
・理解してもらえない時	4	3.8%
・兄弟姉妹と比べられる時	3	2.8%
・会話がないうち	3	
・疑われる時 信用されない時	2	1.9%
・無視される時	2	
・嫌なことをされる、言われる時	2	
・理不尽におこられる時	2	
・ほったらかしにされる時	2	
・勝手にしろと言われる時	2	
・相手にされない時	2	
・そっけない態度の時	2	
・朝、寝ている親	1	
・おこられる時	1	

・冷たい態度の時	1
・八つ当たりされる時	1
・祖父母の方を大切にする時	1
・猫の名前と間違っ呼ばれる時	1
・食事の手抜き	1
・相談にのってくれない時	1
・親が他人に私の悪口を言う時	1
・夫婦喧嘩の時	1
・見放された時	1
・夜、両親とも留守の時	1
・無神経なことをされる、言われる時	1
・見下される時	1
・親だけで旅行に出かける時	1
・汚くののしられる時	1
・私の知らないところで家族のことを決める	1
・私が親の思いどおりにならない時	1
・厭味を言われる時	1

回答数 68 件 回答者 62 名 回答記入なし 44 名

3、あなたは親から暴力を受けたことがありますか？

・今もある 4 名 3.8%

父親から 2 名 母親から 1 名 両親から 1 名

・よくあった 5 名 4.7%

父親から 1 名 母親から 2 名 両親から 3 名

・時々あった 38 名 35.8%

父親から 4 名 母親から 16 名 両親から 13 名 祖父母から 1 名

誰からか記入なし 3 名

- ・なかった 59名 55.7% あった 47名 44.3%

「よくあった」と「時々あった」の時期は、小中学校時代が多いが、高校2年生とか3年生、大学に入ってから、などもある。

4、あなたは親の言葉で傷ついたことがありますか？

- ・今もある 18名 17.0%

父親から 名 母親から10名 両親から7名 祖父母から1名

- ・よくあった 10名 9.4%

父親から1名 母親から8名 両親から1名

- ・時々あった 40名 37.7%

父親から2名 母親から15名 両親から15名 祖父母から4名

誰からか記入なし5名

- ・なかった 35名 33.0% あった 68名 64.2%

- ・あったかなかったか記入なし3名

親から暴力を受けたことのある47名の中で

- ・今もある 11名 23.4%

父親から 名 母親から6名 両親から5名

- ・よくあった 5名 10.6%

父親から 名 母親から4名 両親から1名

- ・時々あった 19名 40.4%

父親から1名 母親から8名 両親から7名 祖父母から1名

誰からか記入なし2名

- ・なかった 11名 23.4% あった 35名 74.5%

- ・あったかなかったか記入なし1名

親から暴力を受けたことのない59名の中で

- ・今もある 7名 11.9%

父親から 名 母親から4名 両親から2名 祖父母から1名

誰からか記入なし1名 上記の中に両親と祖父母の両方から1名

- ・よくあった 5名 8.5%

父親から1名 母親から4名 両親から 名

- ・時々あった 21名 35.6 %

父親から1名 母親から7名 両親から8名 祖父母から3名

誰からか記入なし3名

- ・なかった 24名 40.7% あった 33名 55.9%

- ・あったかなかったか記入なし2名

<考 察>

1、あなたはどんな時に親から大切にされていると思いますか？

この問への回答件数は163あった。問2のどんな時に大切にされていないと思うか？が68件であるから、調査対象の学生では、親から大切にされていると感じる者の方が多いと言えよう。

この問については、病気や怪我の時で看病してくれる時と20名、 18.9%が答えている。確かに直接的に親が食事などの面倒を見てくれる時で、子どもにとって親の愛情が分かり易い時であるが、病気や怪我をしなければどうなのか心配になるところである。

2番目に多かったのは、真剣に相談の乗ってくれる時の12名 11.3%と、同じく、心配してくれる時、気にかけてくれる時の12名である。

3番目が、おこられる時、叱られる時の6名と、帰りが遅く心配しておこられる時の5名、合わせて11名 10.4% である。子どもを叱る時、怒る時というのは、親にとっても不愉快な時であるが、案外、そのことが親の愛情を伝えることになっていることがある。もちろん叱る事柄や叱り方にも問題はあるが、放任よりも叱ることが愛情を伝えるのであろう。

4 番目が、話を聴いてくれる時の 9 名 8.4%。5 番目が、帰宅が遅い時に起きて待っていてくれる、の 8 名 7.5%である。

その他、多くの回答があるが、「誕生日を祝ってもらう時」という回答は 1 名だけである。これはどういうことなのであろうか。誕生日祝いは子ども時代で終わってしまうのであろうか？ 再度問いかけてみたいところである。

2、あなたはどんな時に親から大切にされていないと思いますか？

この問への回答で一番多かったのは、話を聞いてもらえない時の 11 名で、10.4%にあたる。次が、親の考えを押しつけられる時の 6 名と、兄弟姉妹ばかり可愛がる 扱いの差の 6 名で 5.7%である。3 番目は、理解してもらえない時の 4 名で 3.8%、その後、兄弟姉妹と比べられる時、会話がないう時、疑われる時 信用されない時、無視される時、と続く。

この中で、2 位の兄弟姉妹との扱いの差、というのはカウンセリング場面ではよく問題にされるところで、来談者の多くが、現在の年齢に関係なく、幼い頃の親から受けた不平等な扱いにこだわっておられる。これは 50 歳になっても 60 歳になってもやはり許せない過去の思い出として語られることがある。

問 2 の回答を、親の立場で読んでみると、反省させられる意見が多い。大人になってしまった自分の子どもたちに回答させるとどんな意見になるかを考えると、時間を巻き戻したくなる。

この問には回答なしが 44 名と問 1 よりも多く、回答なしの中に「親から大切にされていないと感じたことはない」とわざわざ記入している者も 20 名以上あり、救われる思いがする。

3、あなたは親から暴力を受けたことがありますか？

この問に対しては、なかったが 59 名 55.7%で、あったが 47 名 44.3%である。今もあるという者が 4 名 3.8 %あり、その他にも高校時代まで続いていた者や、大学生になってからも親の暴力を受けた者もある。

臨床心理士の立場で、問題のある来談者ばかりを面接していると、今も暴力を受けている学生がもっとあるように感じるが、これは数字の問題ではなく、ひとりでもこのような学生がいれば、大学側が何らかの援助をするシステムを考えなければいけない。筆者自身も、とくに記名でこれらのことを記入した学生には個人的継続的に注意を向けていく。

4、あなたは親の言葉で傷ついたことがありますか？

この問には、今もある、が18名 17.0%で、よくあった、が10名 9.4%である。誰からか、では、母親からが非常に多い。それは、父親よりも子どもと、あるいは娘と接する時間が多く、心理的距離も近いからであろうか。

なかった、と答えた者は35名 33.0%で、あった、と答えた者は68名 64.2%である。

他の問との関係では、親から暴力を受けたことのある者は、言葉で傷つけられることも、47名の中で35名 74.5%と多くなっている。・今もあるのは11名 23.4%で、約1／4である。親から暴力を受けたことのない59名の中では、言葉で傷ついた者が33名 55.9%となっている。

「よくあった」と「時々あった」の時期は、物理的暴力に比べると記入なしが多い。それは物理的暴力よりも長期・広範囲に渡っていることによると思われるが、さらに、ある程度成長しないと、「言葉で傷つく」ことの意識化ができないこともあると考えられる。

この問も、臨床心理士の経験の中から、ぜひ問うてみたいものであった。大人の面接でも、過去に親に言われた言葉でずいぶん傷ついていることが語られることが多い。また、親に言い返すことができないタイプの来談者も多い。

面接の場面で、小学生などの親子関係を見ていると、あるいは、電車の中などの家族の場面を見ていると、ずいぶん酷い言葉を子どもに投げつけているような親が見られる。まるでテレビのギャグのような場面もある。

ある身長が伸びないことが悩みの小学校4年生男児と久しぶりに道で会った

時、以前よりもずいぶん大きくなっていたので、筆者が「うわぁ、大きくなったね」と声をかけると、側にいた母親が「いいえ、学校では一番小さいですわ」と大きな声で言ったことがある。これは言葉による暴力とさえ言えよう。単に実態を言ったのか、子どもに対して「もっとごはんを食べなさい」と言いたかったのか、「カウンセラーのくせに小学校4年生男児の平均身長も知らないのですか」と筆者を非難しているのか、背の低い夫を非難しているのか、このお母さんは何を言いたかったのであろうか。

テレビ番組で吉本などの、相手を傷つけて笑いをとるような場面が多く見られるが、このお母さんもテレビの見すぎかもしれない。多文化共生社会を考えると、もっと放送倫理なども考慮する必要があるだろう。上からの規則ではなく、マスコミ関係者の心からの自発的配慮、相互尊重の姿勢がほしいところである。

問の5、6、および3と4の文章部分についてはさまざまなことが見られるが、学生個人のプライバシーに属することが多く、ここに表現することは控える。内容的には、平和なほほえましい家庭がうかがわれるものも多いが、この家に生まれて良かったと思うことは一度もない、などという、ずいぶん心配な記述もある。小・中・高等学校では保護者会や家庭教育学級が多く開かれているが、大学でもケアを要する家庭があり、アドバイザー・担任教員と家庭との連携を深める必要を感じるものもある。実際、時には家庭訪問をすることがあるぐらいの状況である。

＜ま と め＞

今回の回答者で見ると、まずまず問題のない家庭で育った学生も多かった。しかし、個人的ケアを要する内容も多かった。親の言葉で傷ついたことがある学生が64.2%もあることは印象に残る。数字は読み方によって意味が変わるが、悪く見ると、親から暴力も受けず、酷い言葉で傷つくこともなく、平和な家庭で育った学生は約3割ということになる。

筆者は「高等教育におけるキリスト教教育」という大テーマの中で研究を進

めているが、このテーマ以前に、高等教育の対象者たる学生の実情を把握する必要がある。今回のような調査を踏まえると、高等教育、大学・短大においても学生の背後の家庭のことも考えに入れた教職員の働きが必要と思われる。またキリスト教教育・宗教教育も、知識教育だけでは不十分であることが考えられる。ボランティア活動など、学生と教職員がともに汗するような場面、深い信頼関係を感じるような場面がさらに必要なのではないだろうか。学生相談室やクラスアドバイザー制度の充実、教職員の教育相談的資質向上など、多方面からきめ細かなあたたかい取り組みが必要である。

＜文 献＞

- 1) 日高正宏 1994 高等教育におけるキリスト教教育－学生への調査から－
平安女学院短期大学教育研究所年報 1 号 26-49
- 2) 日高正宏 1997 高等教育におけるキリスト教教育－大学生に何を教える
ことができるか－ 平安女学院短期大学教育研究所年報 4 号 47-54
- 3) 日高正宏 1998 短大生が短大・大学教育に求めるもの
平安女学院短期大学教育研究所年報 5 号 66-78
- 4) 日高正宏 1999 キリスト教科カリキュラムの検討－学生から反応－
平安女学院短期大学教育研究所年報 6 号 89-101